



NET 10kg

Mイーシーとは数種の有効微生物を活用した土壌改善資材であり、抗生物質を産出する放線菌や乳酸等の有機酸を生産する乳酸菌などの有効微生物群と酵素・有機アミノ酸(20種類)・核酸・ビタミン・キチン質・ミネラル(マンガン・亜鉛・銅・ヨウ素など)を含んでいることから、土壌に有益な微生物を急激に増殖させる能力を有する。

## ●使用目的

Mイーシーの対策を必要とする主な状況は次の通りである。

### ・土壌病害対策

放線菌・乳酸菌・細菌・酵母菌などの働きにより病原菌の繁殖を抑制する。

### ・高塩基障害対策

有効菌が、塩基や酸基を吸収し、濃度を減少させる。

### ・いや地現象対策

前作物の根から排出された老廃物を分解または吸収し、作物の栄養分に再合成する。

### ・pHの矯正

微生物による緩衝能力により、pHを矯正しながら正常化する。

### ●効果的な土壌病害対策

土壌病害発生の際に懸念が増して

いる圃場では、Mイーシー単体の対策ではなく、これまでご紹介してきたバクチャーゼなどの併用が大変効果的である。

前作の残渣とともにバクチャーゼK10〜20袋を投入、さらに堆肥2〜5tとMイーシー1袋と米ヌカ60kgを混合し、全面散布してすき込み十分なカン水を行う(すべて10a当たり)。定植や播種は、これらの対策を行った後、1カ月以上間隔をあけ、土になじませてから行うことが望ましい。また、すでに土壌障害の出始めている圃場では、バイオ健太くん・バイオ根助・キトチンキなども使用したミズホ式太陽熱消毒がさらに高い効果を発揮する(図①)。

## ミズホ式土壤まるごと発酵

－ 太陽熱プラス善玉菌（バクヤーゼK&Mイーシー）の発酵熱－

材料：

	10a 当たり	3a 当たり
(1) 前作の残渣やマルチに使ったワラやモミ殻または緑肥		
(2) バクヤーゼK	10～20 袋	3～10 袋
(3) Mイーシー	1～2 袋	5～10kg
(4) 米ヌカ	60～100kg	30～60kg
(5) バクヤーゼ堆肥	50 袋～	20 袋～
(6) バイオ健太くん	20 袋～	7 袋～
(7) MB動物有機ペレット	10 袋～	10 袋～

※バクヤーゼKの量は、前作の残渣やワラおよび地元入手の堆肥などの量が  
多い場合増量します（有機物または堆肥1tに対して3～5袋が目安）。

※Mイーシーは、前作で病気の発生があった場合は、20kgに増量します。

※米ヌカは、多いほうがMイーシーの菌がよく動きます。

※バイオ健太くんは、排水性に問題のある圃場に投入します。

※MB動物有機ペレットは作物によって必要量が違います。

また、作付の1カ月前に施肥してもかまいません。

**ポイント：**ハウスの屋根、両サイドのビニールは、そのままにしておく。

**ポイント：**圃場の端の方および谷の下付近は、  
有効菌が十分に増殖しない場合も  
ありますので、中央より多目にし  
ます。

**ポイント：**センチウ害の多発している圃場  
は、元肥も同時に投入して、定植  
ウネを作ってから蒸しこみます  
(右写真)。



以上をすきこみ、耕運します。

カン水チューブを使って、時間をかけて土壤に水分を補給します（約一晚）。

※時間をかけて散水するのは、土中深くまで水分を行き渡らせるためです。

※散水する水にバイオ根助20ℓ、キトチンキ3ℓも混用すると、有効菌の動きが促進されます。

十分、カン水後、古いビニールをかけて蒸しこみます。

太陽熱と土壤の有効菌の活動熱によって、土の深いところまで温度が上がる  
のが、このミズホ式土壤まるごと発酵の特徴です。

5～7日でシートの中を覗くと、バクヤーゼKやMイーシーの菌が表面上に多く  
見られるようになります。そして土の中にも見えます。

温度上昇で圃場が乾いた場合は、水分を補います。

約30～40日で完了です。